

「フクシマ原発事故」学習会

六月七日（火）十八時より田中機械ホールにおいて反原発学習会が開催されました。

冒頭、司会の中村副委員長から「三月十一日に起こった東日本大震災以降、毎日のようにテレビのトップで放送されているが、三か月経って政府や東京電力が言っていたことが次々と嘘であったことが明らかになってきた。現実にメルトダウンが地震の五時間後に始まったことが保安院も認めている」「港合同として震

災直後からNPOみなとの皆さんに協力を得ながら義援金を集め送る活動を行ってきた。そして今年のメーデーでは大きなスローガンとして『人類の未来のために原発はいらない』を掲げて集会とデモを開催してきた」

「今、誰しも感心を持つのが福島原発はどうなっていくのか、どういう影響が出てくるのかが注目もするし心配するところでもある」「ドイツでは二十二年までに十七基の原発を停止することが閣

議で決定された。日本ではまだまだそこまですていない。何より腹が立つのは嘘で嘘を塗り固め、人を人とは思わない政府や東電に対して怒りを燃やして責任追及をしていく運動が大事である」と挨拶をされました。

三八年間高校教師をされ、地球温暖化や放射能、化学物質による汚染に反対する活動をしている団体の「地球救出アクシオン九七」の稲岡美奈子氏から講演をしていただきました。

〔以下講演より〕

資料に「フクシマ」をカタカナで書きました。

「フクシマ」は世界の「フクシマ」になってしまった。それでカタカナで書いた。これに深い関係のある「ヒバクシャ」という言葉もカタカナになっている。「ヒバクシャ」という言葉は世界中通用します。

最初に原発とは何か。福島原発は沸騰水型と言われるもの。原子炉が入っているところが原子炉圧力容器と言う。ものすごく厚い鉄でできている。この中で、ウランでできた燃料棒があり炭素でできた制御棒を徐々に

抜いてやると核分裂連鎖反応が勝手に起こる。石油・石炭を燃やしてやれば熱が出てくるが核反応はそれと段違いのエネルギーを出す。放射線も出

■ フクシマ原発事故の経過と原因

マグニチュード九。地震学者もほとんど予測できなかった。広い面積にわたって地震があり津波も大きかった。地震によって原発は壊れていた。ずっと隠していたが最近、配管・配線が壊れていたことが解ってきた。

次に津波が来た。備えが全然出来ていなくて特にひどかったのは冷却するための海水ポンプが全

す。この熱で水蒸気を出しタービンを回し電気を起こす。水蒸気は冷やして元の炉に戻すといった構造。

部持つて行かれた。海水で冷やすことができな

なった。また東北中が停電になり電気も根本から来なくなったが、その前に微動の地震時からひどいのが解ったから制御棒をすべての炉に入れることができた。核分裂連鎖反応を止める事ができた。不幸中の幸いだった。

原子炉を安定させるためには原子炉内の水を循環させ冷やさなくてはならない。どんどん冷やしていくと一〇〇度以下になる。これを冷温停止というがそういうことになるはずだったが、ECCSという高圧力のポンプで水を入れる装置がだめ

になっていた。核燃料は連鎖反応を止めても放射性物質を作っているので放射能と熱を出し続けている。これを崩壊熱という。止めても、もの凄い熱が出る。だからあつという間に水が蒸発してしまう。水がなくなり燃料ペレットがもの凄い高温になり金属は高温になると水と反応して水素を発生する。水素が

建物の中に溜まる事は想定してないので逃がす窓などは作っていなかった。ので地震で揺れた時に引火して爆発した。

高温になり溶けた燃料が少しずつ小さい粒で格納容器に落ちた。大きな塊で海に落ちていたら水蒸気爆発が起っていた。そうになっていたら全てを吹き飛ばしていた。大変なことになっていた。

崩壊熱は最初、物凄い熱を発生するが一週間位すると下がるが、水をかけ続けないと高い状態が数年続く。建屋の上が水素爆発で吹き飛んでいたから水を入れることができた。水を入れることがで

きず原子炉とその横にある使用済み燃料プールが吹き飛んでいたらチェル

ノブイリ事故の一〇倍の被害が出ていた。

■ これからどうなるか

最悪の事態もゼロではない。すいぶん危険は減ったが、強い余震で冷却不能に陥ったら吹き飛ぶ可能性は残っている。五年、一〇年は冷やし続けなければならぬ。しかし汚染水が増え続ける。ほっておいたら海に流れていく。流れていくのを止めて除染し、その水を注水に使うことによって汚染水が海に漏れてしまうの

を防ごうと今、必死になってやっている。若干の危険を残しつつ、今からは汚染水を漏らさないという大変な仕事を五年、一〇年と続けなければならぬ。最後には廃炉にしなければならぬが、どういう形でできるか今は解らないし、何兆円かかるかも解らない。そして、そこで働く労働者は被曝し続ける。

■ 事故の原因

福島第一原発が大変な

ことになっている。古く

て耐震設計がお粗末だった。そして東北全域が送電ダウンすることは想定外。津波の備えも悪かった。ポンプを流れる場所においていた。

しておきなさいと書いてある。即ち、いろいろ考慮していたら設計できない。これは最近の斑目安全委員長の発言である。

原発安全審査指針では外部電源はすぐに復旧するから対応は考えなくてよい。複数の機器の同時多発故障は想定しなくてよい。単発のみの対策を

それから東電と経産省・国、一体の原発推進体制こそが、そういう甘い基準で、いい加減な対策をしていた。まさに人災であることは間違いない。

■ 福島県住民の被曝

福島県全域すべて汚染された。一ミリシーベルト／年以上。ほとんどがセシウム。半分になるには三〇年かかる。

(労働者が原発で管理しながら働く場所)。そういう所に福島県民二〇〇万がいる。

一ミリシーベルトの被曝とは放射線管理区域

今、原発から二〇km以内は立ち入り禁止。三〇kmは緊急時避難。ここで

住んでいる人は非常に少ない。その他、計画的避難区域というのがあが、それはその場所に居たら一年以内に二〇ミリシーベルトになる所で逃げるしかないという場所（飯館村など）。

二〇ミリシーベルトは大丈夫という学者がいるが、最近五ミリシーベルトを浴びた人が労災認定された。一〇ミリシーベルト浴びた人が一〇〇〇人いたら一人が癌で死亡すると言われている。福島県民が全て一〇ミリシーベルト浴びたら二〇〇〇人が癌で死亡する。
ICRP・国際放射線防護委員会というのがあ

り参考レベルの基準を作っているが基本的な考え方は原発推進のためには犠牲はやむを得ない。信用してはいけない基準。

労働者の緊急時、被曝限度一〇〇ミリシーベルトの基準にしていたが事故の後に二五〇ミリシー

■ 全ての原発を停止せよ！

今、定期検査で止まっている原発がすごく多い。動いている方が少ない。運転再開には地元の同意が必要で知事が「ウン」と言わないと動かせない。今、県民が怒っているから知事達は「嫌」と言っている。動かせていない。これから一年で全ての原

ベルトに引き上げた。

県全土が被曝しているので健康手帳・健康診断をやり、被曝によると考えられる病気について保障する制度を作る運動を今始めている。それ位は最低しなくてはならない。

発が定期検査に入り止まる。再起動させなければ全ての原発を止められる。ここが一つの闘いだと思う。

質疑応答の中で節電すれば電力が足りなくなることもないし節約することとは人類のためにも良いこと。そして核のゴミを

出し続ける原発は子孫のために作ってはいけないものだをつくづく思うと言われていた。

今回の人災による原発事故による究極の自然破壊や人々の健康や命を奪っている現実に対して、電力不足や経済優先の主張を繰り返す電力会社や政府・財界に怒りを覚える。人類の未来のために核のない世界を作るためにこれから運動を広げていかなくってはならないと改めて思いました。